

久留米大学医学部整形外科学教室

平成24(2012)年 開講80周年





久留米大学整形外科学教室・開講80周年を祝して

公益社団法人・日本整形外科学会理事長
九州大学整形外科教授

岩本 幸英

久留米大学整形外科学教室の開講80周年、誠におめでとうございます。日本整形外科学会および隣人である九大整形外科を代表して心からお慶びを申し上げます。

久留米大学整形外科学教室は、昭和7年の講座開設以来、歴代教授の強力なリーダーシップの下で、わが国の整形外科の歴史に残る優れた業績を輩出され、全国の整形外科医の尊敬を一身に集めてこられました。初代の田平教授、第2代の生田教授は、学会の発展途上期に活躍され、わが国の整形外科の礎を築かれました。第3代の島教授は、ポリオの手術的治療や農村腰痛症で名声を博されたばかりでなく、後に北大教授に就任されてからは、北海道の地に整形外科を広められました。第4代の宮城教授は骨折をはじめとする外傷の治療で、文字通りわが国のトップリーダーとして活躍されました。第5代の井上明生教授は、股関節外科学、特にキアリ骨盤骨切り術による関節温存手術で顕著な業績をあげられ、数多くの患者さんを救われました。平成12年、井上教授の後任として第6代教授に就任された永田先生は、教授ご就任以来、脊椎・脊髄外科を中心に、最先端基礎研究と臨床が一体化した、臨床医学教室の手本ともいべき研究を推進され、数々の優れた業績を発信してこられました。さらに永田教授のご活躍は、整形外科にとどまらず、久留米大学の21世紀COEの中心メンバーとして活躍されるなど、全学レベルで多大な貢献をされ、本年、全学の圧倒的な時事を得て、学長に就任されました。永田先生ご本人と同門の皆様、心からお慶びを申し上げます。

また、学問的なご業績ばかりでなく、国際交流においても、久留米大学整形外科のご活躍は目を見張るものがあります。なかでも長年に亘る韓国をはじめとするアジアの交流、ドイツとの交流は、その緊密さにおいて、数あるわが国の国際交流の中でも特筆すべきものであります。

久留米大学特有の暖かいご対応ゆえに、ひとたび久留米の地を訪れた外国人整形外科医は、皆、日本びいきになるともつばらの評判でございます。ドイツとの交流に於いては、現在、久留米大学整形外科学教室が日独整形外科学会の事務局を運営され、永田先生が日本代表を務められておられ、日独交流の中心的役割を果たしておられます。久留米大学整形外科の国際交流に対するご尽力に、心から敬意を表したいと存じます。

開講以来、80年という長い歴史の中で、久留米大学整形外科学教室は、数多くの優れた整形外科の臨床医を育成してこられました。ご同門の先生方は、すぐれた臨床力と暖かいお人柄により、運動器疾患に悩む西日本地区の住民の皆様から、圧倒的な信頼を勝ち得ておられます。どうかこれからも、私達と共に、西日本地区における運動器の国民医療の担い手としてご尽力くださいますようお願いいたします。

また、現在、日整会は、今後100年の整形外科の発展のために、全体の力を結集すべき重要な時期を迎えます。どうか久留米大学整形外科学教室のエネルギーを注いでいただき、学会をさらに発展させて下さいますようお願い申し上げます。

久留米大学整形外科学教室の益々のご発展を心から祈念申し上げます。

久留米大学医学部整形外科学教室 沿革

